病院ボランティアを知るための医療系広報誌

BRIDGE

創刊号

特集（p.3-１０.）

「これが私たちの病院ボランティアだ！」

東海大学チャレンジセンター
病院ボランティアプロジェクト

－－－－

東海大学医学部付属病院ボランティア
オレンジクラブ

－－－－

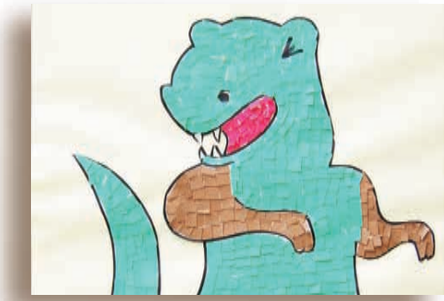
北里大学病院ボランティア会

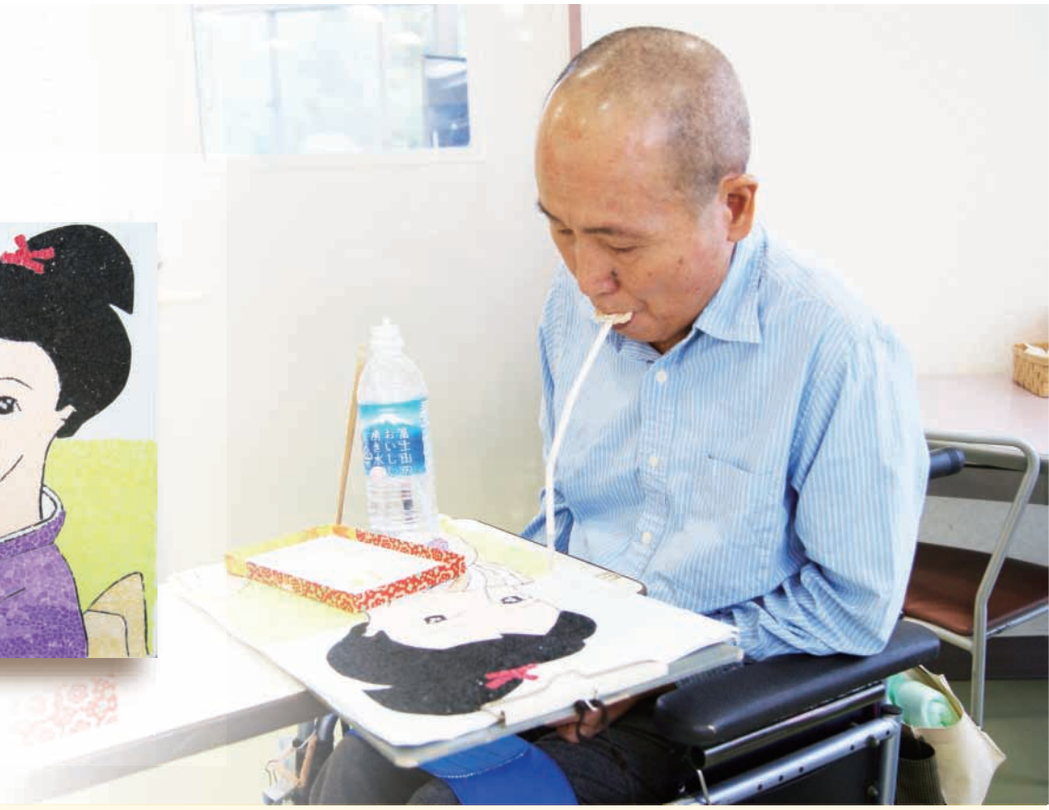
FOCUS
―表紙の人―

※大津さんの貼り絵作品

大津行雄さん

表紙の「道」の字は、筆で書かれたものではありません。細かい紙を組み合わせて作られた、貼り絵です。作者の大津行雄さんは、怪我により手足が不自由ですが、ご自身の「口」にストローを咥え、吸い上げる力だけを使って 5mm 四方の紙を貼り付けていくことで作品を制作しています。その制作に対する思いをインタビューしました。





●貼り絵を始めたきっかけは？

2012 年の 4 月から丹沢レジデンシャルホーム(神奈川県秦野市)にデイサービスでお世話になって、こちらの職員の方から、何かやってみたらとお声かけを頂き、貼り絵を勧められたのがきっかけです。

●作品制作の際に必要なことは？

それはもう忍耐力しかないですね。丹沢レジデンシャルホームの秋祭りに間に合わせようと貼り絵の制作をしていますが間に合いそうになく、東海大学医学部付属大磯病院に入院していた際も貼り絵を持ち込み、病室で作品を制作していました。

最初のうちは画用紙を貼り付けていましたが、味わいを出すため「道」の字の貼り絵を制作する際には、画用紙ではなく和紙を墨で黒く塗ってもらったものを使いました。現在は、和紙に絵の具で色を付けてもらい、舞妓さんの貼り絵を作っています。「花」の貼り絵の右下にある落鑑は、施設の職員さんが、私が「行雄」という名前なので、「行」という字を入れて作ってくれました。作品のもととなった「道」「花」の字は、友人や通所している方が書いてくれました。こうして、みんなの協力があって、ひとつの作品ができあがります。

●貼り絵を始めて変わったこと、感じたことは？

怪我をして 18 年、貼り絵制作を始めたのは去年からですが、始めてからは楽しみができました。自分で、目標というか、次なにやろうかどのようなものを作ろうかという構想が出てくるようになり、日々がさらに充実したものになりました。

●病院ボランティア活動に対してどのように思いますか？

学生さんや様々な方がボランティアとして活動していることは、とても素晴らしいことだと思います。これからも活動頑張って下さい。

INDEX

▶ **1-2** FOCUS ―表紙の人―

▶ **3-10** 特集

これが私たちの病院ボランティアだ！

・東海大学チャレンジセンター

病院ボランティアプロジェクト

・東海大学医学部付属病院

ボランティアオレンジクラブ

・北里大学病院ボランティア会

▶ **11-12** Volunteer Story

▶ **13** 勉強会

―病棟ボランティアで

生かせる知識―

▶ **14** 医療知識クイズ

▶ **15** 医療職紹介

VOL.1　臨床工学技士―

▶ **16** VOICE

―入院して感じたこと―

▶ **17** ボランティア受け入れ先紹介

▶ **18** 編集後記

これが私たちの病院ボランティアだ！

P.9-10
北里大学病院
ボランティア会

P.5-6
東海大学
チャレンジセンター
病院ボランティア
プロジェクト

P.7-8
東海大学医学部付属
病院ボランティア
オレンジクラブ

病院でボランティアを行っている団体は、私たち病院ボランティアプロジェクト以外にも数多くあり、どの団体も、それぞれ特色のある活動を行っています。今回は、私たち病院ボランティアプロジェクトを含めた３団体の活動について紹介いたします。

東海大学チャレンジセンター

病院ボランティアプロジェクト

患者さんと同じ目線に立ち、入院生活における不安を和らげたい

▲※１院内コンサートの様子

▲※2 制作した絵本

●団体紹介

病院ボランティアプロジェクトは、2006 年に東海大学チャレンジセンターで発足し、今年で８年目を迎える、東海大学生による学生ボランティアです。東海大学医学部付属病院を拠点に、病棟ボランティアのほか様々な企画を実施しています。全ての企画は、理念の達成に向けて一から自分たちで考え、病院関係者をはじめとしたたくさんの方のご協力をいただきながら実施しています。

院内コンサート※1 では、コンサートのコンセプト決定から始まり、そのコンセプトに合った団体への出演交渉、演目の決定、会場装飾の制作などを行います。全ての工程において、患者さんに少しでも楽しんでいただくことを第一に考え、行動しています。

絵本制作※2 では、子どもたちの入院生活における不安を軽減するため、「薬や注射は怖くない」ということを伝える絵本、『できるもん！！～おくすりマンとこびとさんのおはなし♪～』の制作を行いました。この絵本は、病院ボランティアプロジェクトのホームページからダウンロードすることができます。

●理念・目的

私たち病院ボランティアプロジェクトは、「患者さんと同じ目線に立ち、入院生活における不安要素を解消する」という理念のもと、東海大学医学部付属病院での病棟ボランティア活動や、イベントの企画及び開催、患者さんとのふれあいで学んだことを発信していく活動を行っています。

●構成

東海大学生約５０名 （工学部、教養学部、文学部など）

●活動日時（曜日・時間）

病棟活動：毎週火曜日・水曜日・金曜日　１８時～２０時

●主な活動内容

病棟ボランティア、院内コンサート、絵本制作、セミナー、勉強会

病院ボランティアプロジェクト
代表　吉永　将太郎さん

●やりがい

患者さんとの触れ合いの中で、ありがとう、などの感謝の言葉をかけていただいたときです。

●ボランティアを始めたきっかけ

大学に入って、何か新しいことにチャレンジできないか、と考えていたところ、友人に病院ボランティアプロジェクトに誘われ、始めました。

●ボランティアをする上で心がけていること

入院なさっている患者さんがどのような不安を抱えているのか、そしてその不安を少しでも解消するために、自分は何ができるのか、ということを常に考えて、行動することを心がけています。

●あなたにとってボランティアとは？

社会、そして様々な人と関わることのできるものです。誰でもやろうという意思があれば、できるものですが、自分の行動一つ一つに責任が伴う行為だと思います。

▲※1 ホールで患者さんを案内

●団体紹介

東海大学医学部付属病院でボランティア活動を行っている「オレンジクラブ」は、同院の設立と同時期となる１９７５年に支援活動をスタートし、まもなく設立４０年になる団体です。主な活動は、ホール案内※１、移動図書、病棟活動です。ホール案内では、院内の様々な施設の案内をしています。押しつけや、自立心を損なうような介助とならぬよう心掛け、患者さんや付添いの方が何を求めているのかを察して行動するようにしています。病棟では、主に小児科・整形外科で活動しており、小児患者の遊び相手や、介助を行っています。

さらに特色として、一般の病院ボランティアとは少し異なり、団体としての「独自性・自立性」を重んじ、活動内容・方針を決定しているという点があります。「病棟の業務のお手伝い・下請け」ではなく、「患者さんの立場に立った目線で、団体としての主体性のある行動」を根幹に、ボランティア活動を行っています。

●理念・目的

「己の技術・技能・時間を無償で提供して患者がより良い環境で治療を受けられるようにお手伝いをしていく。さらにはそうした活動を通して社会参加を深め、自分たちの人間性を高めていく。」という理念のもと、活動しています。

●構成

約 110 名　主なメンバーは 50 代後半～ 60 代、伊勢原市民が中心

●活動日時（曜日・時間）

月曜～金曜および第１・第３・第５土曜日　８時～ 15 時半
※日曜、祝日、第２・第４土曜日、年末年始、11 月１日の建学記念日は休み

●主な活動内容

院内の施設案内、移動図書の運営、病棟（主に小児科や整形外科）での患者さんとの触れ合い

オレンジクラブ
代表　石川　勝栄さん

●やりがい

活動中に、患者さんや付き添いの方に掛けていただく「ありがとう・ご苦労さん」という言葉には励まされ、元気をいただいています。

●ボランティアを始めたきっかけ

定年を契機に、改めて社会とどのように関わっていくか考えた時です。

●ボランティアをする上で心がけていること

患者さんの自立支援が基本だと考えています。ですので親切の押し売りはしないことと、和やかな雰囲気づくりを心がけています。

●あなたにとってボランティアとは？

病気や怪我などで治療が必要な患者さんが、より良い環境で治療が受けられるように、多岐にわたり患者さんのお手伝いをすることだと思います。

東海大学医学部付属病院ボランティア

オレンジクラブ

和やかな雰囲気づくりを心がけています

北里大学病院ボランティア会

患者さんにより気持ち良い療養を

▲※１抑制ひも製作の様子

▲代表の矢島愛子さん

●団体紹介

北里大学病院ボランティア会は、平成５年に、病院職員OB や既に院内で活動していたボランティアを病院で認めた組織として設立されました。当初は少人数で活動していましたが、現在は外来や病棟でたくさんの方が活動しています。ボランティア活動は、メンバーの都合がよい時間に行っており、「患者さんがより気持ちよく療養でき、安らぎを感じられる時間を過ごしていただく」ことを目指して活動しています。ボランティア活動を行うにあたって特別な資格はいりませんが、健康であること、人を思いやる温かい心を持っていること、患者さんのプライバシーを守れることなどの条件があります。

外来部門の活動では、「抑制ひも」※１という、主にアトピーの乳幼児が自分の肌をかいても傷つかないためのグローブのようなものを製作しています。もともとは病棟の看護師さんが作っていましたが、製作に専門的な知識を必要としないため、今では私たちが週に２回程度製作しています。

●理念・目的

「より気持ち良く受診・療養していただけるように活動する」という理念のもと、自ら患者の気持ちを察して自ら行動し困っている患者の手助けをするということを常に頭に置いて活動を行っています。

●構成

活動者数約 63 名
高校生、50 代～ 70 代の主婦、退職者の方が中心

●活動日時（曜日・時間）

決まっていないが、１人必ず月２回（１回につき２時間以上）

●主な活動内容

病棟ボランティア・診療所への案内・衛生材料作り・エプロン清掃等

北里大学病院ボランティア会
代表　矢島　愛子さん

●やりがい

患者さんの手助けをして、「ありがとう」と感謝の言葉をいただくと、とても気持ちがよいです。

●ボランティアを始めたきっかけ

私は過去に入院していた経験があり、その時に看護師さんや周りの方々に優しくしていただいたり、お世話になったので、その恩返しとしてボランティアをしています。

●ボランティアをする上で心がけていること

ボランティア中に患者さんにもしもの事がないように、いい加減なことは絶対にしないということを心がけています。

Volunteer Story

―私たちが病院ボラン ティアで得たもの―

私たち東海大学チャレンジセンター病院ボランティアプロジェクトのメンバーは、病棟ボランティアをはじめとした数々の企画を行う中で、多くのことを体験し、たくさんの学びを得ています。その学びは、社会との関わりから得たものや、病棟での体験から得たものなど、メンバーによって様々です。各メンバーがどのようなことを体験し、学ぶことができたのか、インタビューを行いました。

私が病院ボランティアを行ってきた中で、とても印象に残っていることがあります。病棟へボランティアに行ったとき、小学１年生くらいの女の子と出会いました。

「私、明日退院するの」と教えてくれたので、私は「よかったね。退院したら一番に何がしたい？」と聞きました。私は、お菓子が食べたいとか、どこかへ遊びに行きたいという答えが返ってくると思っていました。しかし、その子は「先生やクラスのみんなのおうちへ行きたい。行ってお礼をするの。だってクラスのみんなは折鶴やお手紙をくれたし、先生はたくさん会いに来てくれたから」と答えてくれました。

自分が辛い状況にある時も、自分一人のことだけを考えるのではなく、周りのことを気遣うことのできる、そんな心の豊かな患者さんに出会い、「自分も頑張らなくてはいけない」と励まされました。ボランティアという活動は、様々なことに気付かされ、多くのことを学べる活動であると思います。

東海大学
工学部　３年
上沼 裕太さん

私は、今年度の絵本制作のリーダーをしています。絵本制作は、子どもたちの入院生活における不安を軽減することを目指して、絵本の制作をしています。その中で、小児病棟の看護師さん、エイドさん、大学教授や、絵本に深く関わる団体にお話を伺うことで、社会的ニーズや正しい治療方法、子供たちの様子、また、絵本を最大限に利用する方法など、多くの事を知りました。治療方法については、自分が勘違いしていたことや、知らないことも多く、大きな学びになりました。

ボランティアを始めた頃、私たちにできることは、たかだか知れていると思っていた時期がありました。しかし、家族に会いたいと泣いているお子さんを笑顔に変えることができたとき、ボランティアでも、少しは患者さんの力になっていると実感することができました。私たちにできることは小さいかもしれないけれど、その小さいことに大きな意味があるのではないかと感じています。私たちの活動が、治療生活の楽しみや学びに繋がると、とても嬉しいです。

東海大学
教養学部　２年
鶴田 満里乃さん

病院ボランティアといっても、ボランティアの方法には様々な形があります。私たち病院ボランティアプロジェクトが行っている活動だけでも、看護師さんのお手伝いや、絵本の読み聞かせ、院内コンサートの企画などがあり、専門的な知識がなくても、出来ることはたくさんあると思います。だから、病院ボランティアをするときに大切なのは「何をするのか」ではなく、「どんな気持ちで行うか」ということだと思っています。

以前、食事介助をさせていただいた際、自分が食事をとる時とは大きく違い、非常に細やかな作業が求められました。この体験から、自分の常識だけで行動してはいけないと学び、常に患者さんの立場に立って考えることを徹底しています。このことを忘れてしまうと、ただの自己満足になってしまうため、相手の立場に立つことを常に心掛けています。

東海大学
教養学部　２年
野上 裕太郎さん

医学知識クイズ

活動の一環として、近隣の方や学生を対象とした公開セミナーを開催しています。一般の方の病気に対する不安を軽減させることを目的として、テーマに沿った講師をお招きし、講演をしていただいています。

２０１２年に開催した第１０回セミナーでは、米山医院（東京都あきる野市）院長を務めると共に、執筆活動をされている米山公啓氏をお招きして、「本当は間違ってる？あなたの医学知識」と題し、講演をしていただきました。その際に出題された○× クイズです。

Q1. 切り傷はガーゼを当ててはいけない!?

【解説】

傷口から「しんしゅつ液」という組織の再生に必要な細胞や成分を多く含む液が出ています。傷口を消毒するとバイ菌と一緒に、そういった細胞や成分までもが殺されてしまい治りが遅くなります。なので、絆創膏やガーゼをせず、水で傷口のゴミや汚れを洗い流し、じゅくじゅくしたままで、乾燥させない方が治りも早くなります。

【○解正】

Q2. 予防接種のあとは揉んではいけない！？

【解説】

予防接種は、主に「皮下注射」することになっています。この場合、接種した場所を強く揉むと、皮下組織がダメージを受け、局所反応やアナフィラキシーの発生する頻度が高くなると考えるため、良くないとされています。注射方法の一つに「筋肉注射」があり、この場合は揉むことが勧められるため、考えが混同していると考えられます。

【○解正】

勉強会

―病棟ボランティアで生かせる知識―

私たち病院ボランティアプロジェクトは、理念を達成するための知識の習得を目的に、定期的に勉強会を行っています。今回は「病棟ボランティアで生かせる患者さんとの接し方」をテーマに、グループごとに発表を行いました。その中から、傾聴・食事介助・子どもとの接し方について掲載します。

―食事介助―

【食事介助のポイント】

・患者さんの喉を観察し、しっかり飲み込んだことを確認して次の食べ物を口に運ぶ。
・最後にお茶を飲ませて、食べかすを流し込む。

☆介助する側は、「介助される側の最大限の力を生かすための最小限のお手伝い」を心がけることが大切。

―小児科病棟での子どもとの接し方―

【接し方のポイント】

・オーバーリアクションをし、楽しい雰囲気をつくる。
・名前を呼び、積極的に褒めるようにする。

☆目を合わせ、笑顔で接することによって、子どもは安心して話すことができるようになる。

―傾聴―

【傾聴とは】
相手の話に深く丁寧に耳を傾け、受容的・共感的な態度で聴く行為や技法のこと。「聴きたい」という態度で聴く行為や技法のこと。「聴きたい」という態度と心が相手に伝わって初めて成り立つ。

【傾聴の効果】
相手への理解を深めるとともに、相手も自分自身に対する理解を深め、元気をだしてもらい、納得のいく判断や結論に到着できるよう支援する効果がある。

【傾聴のポイント】
・聴き手はまず黙って相手の話を聴くこと。
・相手の人格を尊重し、受け入れられること。

【傾聴技法】
・あいづち…相手に聴いているという安心感を与える。
・繰り返し…話し手が自分のしている話を客観的に知ることができる。
・要約…話し手の言いたいポイントを整理することができる。

－医療職紹介 VOL.1－ 臨床工学技士

病院には、医師、看護師をはじめ、多様な医療職が存在しています。

一般的にはあまり知られていない医療職も多数ありますが、医療において非常に重要な役割を担っています。今回は、臨床工学技士について調べました。医療の発達につれ、先進の医療機器が登場する中、医療現場で臨床工学技士に求められるものが増加しています。

そこで、東海大学工学部医用生体工学科准教授の大島浩氏にご協力いただき、お話を伺いました。

―臨床工学技士とはどのような職業か？―

臨床工学技士とは、医師の指示のもと患者に備えつけられた生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業務とする職業です。主な業務内容として、呼吸機能・循環機能・血液浄化機能の操作、機器の保守点検などがあります。医療機器を扱うため、医学の知識はもちろんのこと、工学の知識も必要とされる職業です。現在、日本には臨床工学技士が三万人しかおらず、不足状態にあります。近年では高度な医療機器が開発されていて、臨床工学技士の現場での仕事が幅広くなっています。中でも人工心肺装置の操作は臨床工学技士の主な仕事内容として知られています。人工心肺装置は心臓手術などの際、一時的に心臓と肺の機能を代行する医療機器です。

▲臨床工学技士が操作する透析装置

―大島先生について―

私自身、はじめは臨床検査技師（医師の指示のもと生理学的検査、血液検査等を主たる業務とする職業）として勤務していました。しかし、手術室の検査業務に就いていた時、医師から「人工心肺を扱ってみないか」と勧められ、体外循環技士として働き始めることになりました。当時は臨床工学技士という業種はありませんでした。

―やりがいについて―

医師や看護師と共に仕事をする、『チーム医療』の一員として患者さんの命を救うことが出来ることにやりがいを感じます。

現代医療の発達はめまぐるしいものです。その中でも、先進医療機器を取り扱うことの出来る臨床工学技士は、医療現場ではなくてはならない職業の一つです。

VOICE

―入院して感じたこと―

帝京科学大学
柔道部コーチ
小林 咲里亜さん

1987年8月29日生まれ、兵庫県出身。9歳から柔道を始め、全国中学校柔道大会優勝、インターハイ優勝の経歴を持つ。

テレビでオリンピックでの柔道の試合を観たことがきっかけで、「人を投げてみたい！」と思い、９歳から柔道を始めました。その後、厳しい練習を乗り越え、数々の大会で優勝を重ね、大学にスポーツ推薦で入学しました。

その１８歳の春に、メディカルチェックで、医師から神経芽細胞腫（小児ガンの一種）であると診断されました。神経芽細胞腫は小児ガンの一種で、１８歳の人が罹るというのはまれなことでした。私は自分が病気だと知った時、「なんで自分が…」という思いが強く、簡単に受け入れることは出来ませんでした。

そんな苦しい環境の中でしたが、「ガンのことより柔道の試合に出なければいけない！」という思いが強く、病巣となっていた副腎を切除して試合に出場しました。

しかし、ガンはすぐに再発し、抗がん剤での治療が始まりました。抗がん剤によって髪の毛が抜けることも、吐き気を催すということも知っていましたが、治療は予想していたよりもずっと辛いものでした。

当時、強化選手だった私にとって、試合で勝つということは当たり前のことであり、少しでも負けてしまうとランクが下がってしまうため、勝ち続けなければいけないと毎日必死でした。そんな時、突然病気が発覚し、入院。勝ち続けなければならないというプレッシャーから解き放たれた反面、毎日必死で頑張ってきたのに、突然、生きるか死ぬかの状況に陥ることとなり、苦しい心境でした。しかし、徐々にそういった自分自身の気持ちと冷静に向き合うことができるようになっていきました。それは同じ病棟に入院していた子供たちがきっかけでした。辛く苦しい治療の日々の中、病と闘い必死に生き抜く子供たちの純粋な心に触れ、柔道で「勝ち」ばかりにこだわっていた自分の過ちに気づいたのです。今まで自分が当たり前のようにしてきたこと、感じてきたことはすべて当たり前ではなく、とても幸せなことだったということに気づかせてくれました。

このような経験をしてきたからこそ、自分と接したときに何かを感じてもらえるような人になりたい！と思っています。

▲病気克服後、靭帯の再建手術のため入院
◀少年柔道塾でコーチも務めた

受け入れ先のご紹介

ボランティアを受け入れている病院、団体を紹介します。ご連絡は、必ず下記 URL から活動内容などを確認していただいた上で、お願いいたします。
ぜひ、あなたもボランティアを始めてみませんか？

北里大学病院 ボランティア会

＜住所＞
神奈川県相模原市南区北里 1-15-1
北里大学病院 トータルサポートセンター　ボランティア担当
〈TEL〉
042-778-9397
〈URL〉
http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/section/bumon/soudan/
＜募集条件＞
健康で月２回２時間以上活動していただける方。

医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院

＜住所＞
神奈川県秦野市鶴巻北 1-16-1
サービスシステム開発室
〈TEL〉
0463-78-1311
〈URL〉
http://www.sankikai.or.jp/tsurumaki/patient/ssd/news/cat14/
＜募集条件＞
近隣在住の 18 歳以上の方

東海大学医学部 付属病院 オレンジクラブ

＜住所＞
神奈川県伊勢原市下糟屋 143
〈TEL〉
0463-93-1121（内線 2014）総務課ボランティア担当
〈URL〉
http://prog.pr.tokai.ac.jp/utokai_preview/TkpHospital?p_kubun=01&p_shoc=858010&p_kijic=20120509103210
＜募集条件＞
継続的に活動できる 18 歳以上の方

東海大学医学部 付属大磯病院

＜住所＞
神奈川県中郡大磯町月京 21-1
〈TEL〉
0463-72-3211（代表）
〈URL〉
http://www.tokai.ac.jp/oisohosp/new/personnel%20collection%20Volunteer4.htm
＜募集条件＞
18 歳以上で健康な守秘義務を守れる方

メンバー募集中！

東海大学生なら、どなたでも参加できます！
プロジェクトへ興味のある方は、下記の連絡先へご連絡いただくか、湘南キャンパス８号館２階プロジェクト推進室までお越しください。
私たちと一緒にボランティアしてみませんか？

連絡先

Mail address
hospitalvolunteer.tokai@gmail.com

SNS

Twitter URL
https://twitter.com/TokaiHospitalv

Facebook URL
https://www.facebook.com/Hospital.Volunteer.Project

▲病院ボランティア
プロジェクト　HP

発行日
2013 年 11 月３０日

編集後記

本誌のタイトル「Bridge」には、「医療と社会の架け橋になりたい！」という思いが込められています。

私たちは、病棟でのボランティア活動や、院内コンサートの開催など、患者さんと関わりを持つ中で、**「もっとボランティアをする人が増えれば、より患者さんの力になることができるのではないか」**と、感じています。この思いから、病院ボランティアに関心を持っていただき、さらに、始めていただくきっかけになるため、本誌を発行することとなりました。

創刊号となる本誌は、本プロジェクトにとって初めてのチャレンジとなり、制作を進める中で戸惑いもありましたが、病院の方をはじめ、たくさんの方々のご協力を頂き、発行に至ることができました。この広報誌を通して、病院での様々な体験を知っていただき、医療と社会をつなぐことができればと願っています。

編集長
吉永将太郎　久保佳那
編集スタッフ
有我祥子　亀田晃正　上沼裕太　大西康仁　張卓也
坂田勇希　増山賢二　齋藤諒大　深江來　浅田理恵
高橋光　鈴木智之　寺田朱里　山口郁　山田智也
鈴木良太　岡田真由子　佐々木晴奈　大久保美那

Hospital
Volunteer
Project

東海大学チャレンジセンター

東海大学チャレンジセンター　病院ボランティアプロジェクト
発行日：2013 年 11 月 30 日
HP: http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/hospital/